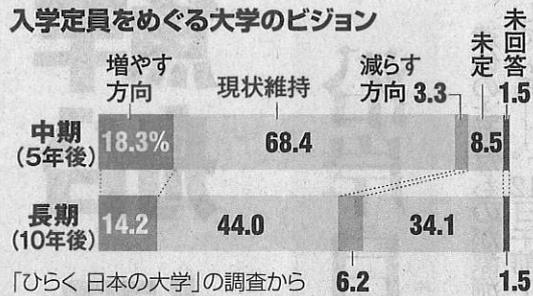


定員減らす大学 将来増える傾向

5〜10年後見通し調査 早大・神奈川大など検討

入学定員をめぐる大学のビジョン



今後5〜10年間で、学生数を減らすことを検討している大学が出てきていることが、朝日新聞と河合塾の共同調査「ひらく 日本の大学」でわかった。一方、定員を増やす方向の大学もまだ相当数ある。18歳人口が急激に減少する中、生き残りを目指す各大学が、岐路に立っている。▼38面「将来ビジョン 対照的」

学部生だけで約4万2千人の早稲田大(東京都新宿区)や、神奈川大(横浜市)など大規模私立大や、大分大など国立大も含まれる。今後定員を増やす方向なのは、京都産業大(京都市)や国学院大(東京都渋谷区)など私立大が多く、国立大は2校だった。日本の大学の入学定員は1990年ごろから急増し、2000年以降も緩やかに増えてきた。文部科学

省によると16年4月時点で約59万3千人で、1992年より12万人増えている。一方、18歳人口の減少に伴って定員割れが広がっており、現在は私大の約4割が定員に満たない。11年から毎年、日本の全大学を対象に実施している「ひらく 日本の大学」ではこうした状況を踏まえ、中期(5年後)と長期(10年後)の入学定員や入学者数のビジョンを尋ねた。今

年は751校を対象に調査。回答を得た662校のうち、入学定員について、中期では▽増やす方向18・3%▽現状維持68・4%▽減らす方向3・3%▽未定8・5%だった。また、長期では▽増やす方向14・2%▽現状維持44・0%▽減らす方向6・2%▽未定34・1%だった。大学規模別にみると、入学定員2千〜3千人の大学(33校)の3分の1が中期で「増やす方向」と答えたのに対し、最も大規模な3千人以上の大学(24校)では13%だった。

(片山健志)